

2023年度 文学部聴講生

講義要項

(哲学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2023.4 - 2024.3

目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	ページ番号
E3101	哲学	古代中世西洋哲学史（1）／西洋哲学史（1）	土橋 茂樹	前期	水	2時限	3
E3102	哲学	古代中世西洋哲学史（2）／西洋哲学史（2）	土橋 茂樹	後期	水	2時限	5
E3103	哲学	倫理学概論	土橋 茂樹	通年	火	2時限	7
E3104	哲学	倫理学概論（他専攻）	石橋 賢太	通年	木	4時限	10
E3105	哲学	科学哲学研究	飯盛 元章	通年	水	5時限	13
E3106	哲学	哲学講義（1）（1 1）	土橋 茂樹	前期	火	1時限	16
E3107	哲学	哲学講義（1）（1 1）	和田 有希子	前期	水	2時限	18
E3108	哲学	哲学講義（2）（1 2）	土橋 茂樹	後期	火	1時限	20
E3109	哲学	哲学講義（2）（1 2）	和田 有希子	後期	水	2時限	23
E3110	哲学	哲学講義（3）（1 3）	佐藤 陽祐	前期	金	3時限	26
E3111	哲学	哲学講義（3）（1 3）	瀬嶋 貞徳	前期	月	3時限	29
E3112	哲学	哲学講義（4）（1 4）	佐藤 陽祐	後期	金	3時限	31
E3113	哲学	哲学講義（4）（1 4）	瀬嶋 貞徳	後期	月	3時限	34
E3114	哲学	哲学講義（7）（1 7）	尾留川 方孝	前期	金	2時限	36
E3115	哲学	哲学講義（8）（1 8）	尾留川 方孝	後期	金	2時限	39

科目名： 古代中世西洋哲学史(1)／西洋哲学史(1)

担当教員： 土橋 茂樹

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-WP1-J103

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:49 更新者： AA9821

更新日時： 2023-01-02 19:52:57

履修条件・関連科目等

特にありません。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

自己と世界(自然・宇宙)、そしてそれらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのか?今年度の哲学史講義は、このような根本的な問いを、地理的、言語的、さらに宗教的にも異なるギリシア、ラテン、アラビア、シリアといった多様な文化圏の交流史を背景として概観しながら、そこに一貫して流れる存在観および倫理観の系譜をたどる試みとして問い直してみたい。前期は古代ギリシア哲学を中心に論じる。
なお、実施方法は、オンライン授業(資料や音声ファイルなどの配信型)で進める。

科目目的

自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのかという根本的な問いを、具体的な哲学史の事例を詳細にたどることによって解明していくことを目的とする。

到達目標

具体的な哲学史の事例を自分なりの言葉で他者に説明できるようになり、さらに自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのかという根本的な問いに自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。

授業計画と内容

実施方法は、オンライン授業(資料や音声ファイルなどの配信型)で進める。

- 第1回 インTRODクシヨン：古代ギリシア哲学史をどのように学ぶか?
- 第2回 ソクラテス以前の哲学(イオニア学派：自然学の勃興)
- 第3回 ソクラテス以前の哲学(ヘラクレイトス：絶えず変転する世界)
- 第4回 ソクラテス以前の哲学(パルメニデス：存在論の始まり)
- 第5回 ソクラテス以前の哲学(ピタゴラス派：数的調和の神秘)
- 第6回 ソクラテスの哲学とは何だったのか?
- 第7回 ソクラテス的論駁法とその目的
- 第8回 プラトン：対話篇とは何か?
- 第9回 プラトン：イデア論とは何か?
- 第10回 プラトンからアリストテレスへ
- 第11回 アリストテレス：カテゴリー論と実体論
- 第12回 アリストテレス：魂(アニマ)・生命・認識
- 第13回 アリストテレス：倫理学と政治学
- 第14回 前期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	35% 期末レポート 35
平常点	30% manabaの「小テスト」3回 10x3=30
その他	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。前期の講義は14回あるので、 $2.5 \times 14 = 35$ とカウントする。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメと資料を配布する。なお、自学用の参考書として、前期は『世界哲学史 I』『世界哲学史II』(ちくま新書、2020年)を推薦する。その他の参考文献に関しては授業でその都度、指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： 古代中世西洋哲学史(2)／西洋哲学史(2)

担当教員： 土橋 茂樹

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-WP1-J104

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:49 更新者： AA9821

更新日時： 2023-01-02 20:06:51

履修条件・関連科目等

特にありません。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

自己と世界(自然・宇宙)、そしてそれらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのか?今年度の哲学史講義は、このような根本的な問いを、地理的、言語的、さらに宗教的にも異なるギリシア、ラテン、アラビア、シリアといった多様な文化圏の交流史を背景として概観しながら、そこに一貫して流れる存在観および倫理観の系譜をたどる試みとして問い直してみたい。後期はヘレニズム期の哲学諸派から説き起こし、近代を先取りした後期スコラ哲学まで、中世哲学を中心に論じる(したがって、後期の内容を十分に理解できるためには、前期の講義も受講済みであることが望ましい)。

なお、実施方法は、オンライン授業(資料や音声ファイルなどの配信型)で進める。

科目目的

自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのかという根本的な問いを、具体的な哲学史的事例を詳細にたどることによって解明していくことを目的とする。

到達目標

具体的な哲学史的事例を自分なりの言葉で他者に説明できるようになり、さらに自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのかという根本的な問いに自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。

授業計画と内容

実施方法は、オンライン授業(資料や音声ファイルなどの配信型)で進める。

- 第 1 回 インTRODククション：中世哲学をどのように学ぶか?
- 第 2 回 ヘレニズム期の哲学：ストア派・エピクロス派
- 第 3 回 古代末期の哲学：新プラトン主義
- 第 4 回 ユダヤ教におけるプラトン主義の受容：フィロン
- 第 5 回 キリスト教の始まり：新約・旧約聖書
- 第 6 回 初期ギリシア教父：オリゲネス、アレイオス論争
- 第 7 回 カップパドキア教父：バシレイオス、ニュッサのグレゴリオス
- 第 8 回 ラテン教父：アウグスティヌス(『告白』)
- 第 9 回 アウグスティヌス(『三位一体論』)
- 第 10 回 神秘思想：ディオニュシオス・アレオパギテース
- 第 11 回 初期スコラ哲学における神の存在証明：アンセルムス
- 第 12 回 盛期スコラ哲学：トマス・アクィナス
- 第 13 回 後期スコラ哲学：主知主義から主意主義へ
- 第 14 回 後期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週 1 回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1 週間あたり 4 時間の学修を基本とします。
- ・毎週 2 回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1 週間あたり 8 時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% 期末レポート 35
平常点	30% manabaの「小テスト」3回 10x3=30
その他	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。前期の講義は14回あるので、2.5x14=35とカウントする。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書という扱いではありませんが、以下を授業でも使用する予定です。自学用の参考にしてください。
土橋茂樹著『教父哲学で読み解くキリスト教』（教文館、2023年6月刊行予定）。
土橋茂樹著『三位一体論』（中公新書、2023年夏頃刊行予定）。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： 倫理学概論**担当教員： 土橋 茂樹**

履修年度：2023 学期：通年

開講曜日時限：火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J211

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:51 更新者：AA9821

更新日時：2023-01-02 20:11:07

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。オンライン受講できる者は、学内、学部で定められた手続きを踏んだ者のみとし、それ以外でのオンライン受講は一切認めない。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、「倫理学(あるいは道徳哲学)とは何か」という問いをめぐって、様々な観点から考察を試み、基本的な知識を習得し、主だった倫理的・道徳的な考え方を使いこなせるようになることを目指します。そのために、倫理学の歴史を古代から現代まで振り返り、規範倫理学とメタ倫理学の諸理論を主要テキストに基づいて解説していきながら、最終的には、広範な倫理学的パースペクティブの構築・解体・再編成が目指されます。その上で、いくつかの現代的な倫理問題を具体的な素材とした応用倫理的なケーススタディが試みられます。なお、実施方法は、対面形式で進めます。

科目目的

この科目は以下の3点を目的とします。

- ① 倫理学の歴史を古代から現代まで振り返り、広範な倫理学的パースペクティブを習得すること。
 - ② 規範倫理学とメタ倫理学の諸理論をそれぞれのテキストに基づいて理解すること。
 - ③ 以上によって習得した新たな観点から具体的な倫理学的問題にみずから取り組めるようになること。
- 以上です。

到達目標

身近な家族・友人関係の問題からグローバルな地球環境や世界政治・経済の問題に至るまで、倫理的な問題をはらむあらゆる出来事に、自分自身の意見が持てるようになることをめざします。そのためには、倫理学的な背景をきちんと理解・習得すると同時に、具体的な倫理的問題に関するケーススタディを通じて、倫理的に物事を読み取り・考え・表現する力を身につけてほしい。

授業計画と内容

授業は、対面形式で進めます。

<前期>

- 第1回 イントロダクション(倫理学の学び方、この授業の進め方)、リスクを分かち合う倫理、「市場の倫理・統治の倫理」(ジェイン・ジェイコブズ)
- 第2回 倫理学史概説(1):プラトンとアリストテレス
- 第3回 倫理学史概説(2):徳論(アリストテレスとストア派)
- 第4回 倫理学史概説(3):近代道徳哲学の形成(1)(自立の創成、主知主義から主意主義へ)
- 第5回 近代の形成:宗教改革-主知主義から主意主義へ(マーク・C・テイラー、トマス、オッカム、ルター)
- 第6回 近代の形成:宗教からの分離(プラトン、アリストテレス、マキャヴェリ、モンテーニュ)
- 第7回 ここまでのまとめ、質問コーナー
- 第8回 近代自然法の興亡(スアレス、グロティウス、ホッブズ)
- 第9回 ホッブズの道徳哲学-欲求と紛争-(ストア派の「衝動(ホルメー)」から「コナトゥス」へ)
- 第10回 自己感知と良心、義務と意志-完全義務と中間義務(キケロ)、思慮・良知・良心-
- 第11回 行為の自発性と責任-自由と決定論、あるいは意志について(1):アリストテレス-
- 第12回 意志と自由-自由と決定論、あるいは意志について(2):アウグスティヌス-
- 第13回 クラス討議、質問コーナーなど
- 第14回 前期のまとめ

<後期>

- 第1回 イントロダクション:現代倫理学の諸相
- 第2回 功利主義(1)-ジェレミー・ベンサム:ベンサムの言語論
- 第3回 功利主義(2)-ベンサムの人間心理学:功利性の原理
- 第4回 功利主義(3)-ベンサムの倫理学
- 第5回 功利主義をのりこえて(1)-R. M. ヘア「倫理学理論と功利主義」:ヘアの二層理論
- 第6回 功利主義をのりこえて(2)-チャールズ・テイラー「善の多様性」:質的対照の言語
- 第7回 功利主義をのりこえて(3)-S. ハンプシャー「道徳と慣習」
- 第8回 ここまでのまとめ、質問コーナー
- 第9回 現代における功利主義と正義論の展開
- 第10回 徳倫理学とカント(1)
- 第11回 徳倫理学とカント(2)
- 第12回 徳倫理学とカント(3)

第13回 クラス討論、質問コーナー
第14回 後期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	58% 前期末と後期末にそれぞれ期末試験(記述式)を1回ずつ、各29 x 2=58%.
レポート	0%
平常点	42% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は28回あるので、各1.5 x 28=42%.
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメと資料を配布する。参考文献に関しては授業でその都度、指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：倫理学概論(他専攻)

担当教員：石橋 賢太

履修年度：2023 学期：通年

開講曜日時限：木4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J211

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:52 更新者：AD0073

更新日時：2023-01-07 04:28:27

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代を生きる我々は、様々な課題を抱えている。それらの課題の中には、容易に解決し得ないものも多い。そのような難問を考える際に大きな助けとなるのが、先人たちの思想である。先人たちの思考を辿ることで、我々が複雑な現実に向かう上で力を与えてくれる。本授業では、そのような先人たちの思想について、東洋の思想を読み解くことで学んでいく。前期は仏教と中国思想について学び、後期はそれらの影響のもとに発展した日本の思想を学ぶ。これを通して、「国際社会に生きる日本人としての自覚」についても考えていくことができるはずである。
なお本授業は教職課程を履修していない者にも有効な授業とすることを目指しているため、教員免許に関係のない者の履修も歓迎する。

科目目的

本授業は中学社会科・高校公民科の教員免許取得のための科目なので、受講者が実際に中学・高校で授業を教える際に必要な知識を得ることを第一の目的としている。ただしそれにとどまらず、本授業を通して得られた知識により、人間や社会についてみずから力で考えられる能力を育成することを最終的な目的とする。

到達目標

本授業では、高校公民科「倫理」のうち、中国や日本などの東洋思想についての十分な知識を得られることを目標とする。また、単にそれらの知識を得るだけにとどまらず、その知識を活かして、様々な倫理学上の問題を考える力を受講者が身に付けることも目指していく。

授業計画と内容

(前期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 倫理学とは何を学ぶのか？一和辻哲郎の所説から考える
- 第3回 仏教の思想① ブッダの思想
- 第4回 仏教の思想② ブッダ以後の仏教の展開
- 第5回 仏教の思想③ 大乘仏教の展開
- 第6回 儒教の思想 孔子の思想
- 第7回 先秦の思想 諸子百家の思想
- 第8回 漢代の思想 儒教の国教化と黄老思想
- 第9回 魏晋の思想 中国における仏教の流行
- 第10回 唐の思想 道教の隆盛と三教鼎立
- 第11回 宋の思想 士大夫の登場と朱子学
- 第12回 明の思想 朱子学と陽明学
- 第13回 清～近代の思想 対外危機の時代の思想
- 第14回 まとめ・総括

(後期)

- 第15回 後期授業のガイダンス
- 第16回 古代の思想① 『古事記』と『日本書紀』
- 第17回 古代の思想② 外来思想の受容
- 第18回 古代の思想③ 日本における仏教の受容と展開
- 第19回 中世の思想① 鎌倉仏教の諸宗派
- 第20回 中世の思想② 中世の諸思想
- 第21回 近世の思想① 近世武士の思想—士道と武士道
- 第22回 近世の思想② 近世の儒教思想—朱子学と反朱子学
- 第23回 近世の思想③ 近世の諸思想
- 第24回 近世の思想④ 国学の思想
- 第25回 幕末の思想 西洋の衝撃と伝統思想
- 第26回 近代の思想① 文明開化と西洋思想の受容
- 第27回 近代の思想② 近代日本の諸課題
- 第28回 まとめ・総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60%
レポート	0%
平常点	40%
その他	0%

授業内容をどの程度理解しているか、及びそれを活用してみずから考える力が身に付いているかを評価。

授業への参加度合、及び毎回の課題における取り組みの積極性を評価。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回の授業後に提出する課題については、次回授業の冒頭に講評を行なう。また、課題の中では質問も受け付けるので、それも次回授業で回答する。
また、メールによる質問や相談は随時受け付ける。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しない。適宜、プリントを配布する。

参考文献

和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫、2007）

井ノ口哲也『入門 中国思想史』（勁草書房、2012）

佐藤弘夫編『概説日本思想史』（ミネルヴァ書房、2005）

清水正之『日本思想全史』（ちくま新書、2014）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 科学哲学研究

担当教員： 飯盛 元章

履修年度： 2023 学期： 通年

開講曜日時限： 水5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-PE2-J213

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:52 更新者： AD0663

更新日時： 2023-01-09 23:49:37

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「時間とはなにか」と「科学的知識とはなにか」というテーマで講義をします。

前期と後期数回をかけて、「時間」という個別の概念を取り上げます。まず、時間が自然科学（特に物理学）においてどのように扱われているのかを紹介しします。自然科学のなかでは、任意の時点しか存在せず、特権的な現在というものが存在しないため、「時間が過去から未来へ流れる」ということが表現できません。「時間が流れる」ということをどのように考えたら良いのか。この点について、現代の分析形而上学の議論を手がかりに考察していきます。また、その他のさまざまな哲学者が時間についてどのように考えているのかも見ていくことになります。

後期の残りの回では、そもそも科学的知識とはどのようなものなのかについて考察します。ポパーの反証主義やラトゥールのアクターネットワーク理論などを参照することによって、科学者の営みについての理解を深めることを目指します。

科目目的

この授業には、以下の目的があります。

- (1) 自然科学の見地を踏まえ、人間の生や日常적인見方を相対化できるようになること。
- (2) 自然科学では語りえないもの（〈今〉や〈ここ〉など）があるということを理解すること。
- (3) 自然科学そのものを相対化し、自然科学の見解には歴史的な発展があるということを理解すること。

到達目標

授業で扱われる内容（時間の本質、科学的知識の本質など）について自分の言葉で説明し、それに対して自分の主張を論理的に展開できるようになること。

授業計画と内容

毎回、前回の授業で書き込んでもらったコメントについて紹介・解説しながら、ゆっくりと進めていきます。授業でわからなかった点や思いついたことなどを、授業後にコメントフォームに書き込んでください。

- 第01回 前期の導入
- 第02回 時間とはなにか(1)―特殊相対性理論と時間
- 第03回 時間とはなにか(2)―一般相対性理論と時間
- 第04回 時間とはなにか(3)―量子論と時間
- 第05回 時間とはなにか(4)―熱力学と時間
- 第06回 時間とはなにか(5)―タイムトラベルの哲学
- 第07回 時間とはなにか(6)―タイムトラベルの哲学（続き）
- 第08回 時間とはなにか(7)―マクタガート、時間の非実在性
- 第09回 時間とはなにか(8)―現在主義と永久主義
- 第10回 時間とはなにか(9)―ベルクソン、持続としての時間
- 第11回 時間とはなにか(10)―ベルクソン、持続としての時間（続き）
- 第12回 時間とはなにか(11)―現象学における時間
- 第13回 時間とはなにか(12)―現象学における時間（続き）
- 第14回 前期の総括・前期レポートの書き方について
- 第15回 後期の導入
- 第16回 時間とはなにか(13)―ホワイトヘッド、生成としての時間
- 第17回 時間とはなにか(14)―ホワイトヘッド、生成としての時間（続き）
- 第18回 時間とはなにか(15)―ハーマン、対象と時間
- 第19回 時間とはなにか(16)―ハーマン、対象と時間（続き）
- 第20回 時間とはなにか(17)―メイヤスー、すべてを破壊しうる時間
- 第21回 時間とはなにか(18)―メイヤスー、すべてを破壊しうる時間（続き）
- 第22回 科学的知識とはなにか(1)―ポパーの反証主義
- 第23回 科学的知識とはなにか(2)―クワインのホーリズム
- 第24回 科学的知識とはなにか(3)―クーンのパラダイム論
- 第25回 科学的知識とはなにか(4)―ラトゥールのアクターネットワーク理論
- 第26回 科学的知識とはなにか(5)―ラトゥールのアクターネットワーク理論（続き）

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	2回(前期と後期)のレポート提出により判定。授業の内容を理解し、自分の主張を論理的に展開できているかを確認します。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として出席点や平常点は考慮せず、レポートのみによって評価します。ただし、それまでに話したことを前提にして授業の議論が進んでいくので、可能な限り出席することを推奨します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

毎回コメントフォームに質問や意見を書き込んでもらいます。それらに対して、つぎの回に教員が応答します。わからなかった点、思いついた論点などを自由に書いてください。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特にありません。参考文献は授業内でその都度、配布ないし紹介します。差し当たり、以下のものを挙げておきます。

参考文献

- ・吉田伸夫『時間はどこから来て、なぜ流れるのか?—最新物理学が解く時空・宇宙・意識の「謎」』(講談社、2020年)
- ・森田邦久『時間という謎』(春秋社、2020年)
- ・戸田山和久『科学哲学の冒険—サイエンスの目的と方法をさぐる』(NHK出版、2005年)
- ・伊勢田哲治「科学哲学」(『哲学の歴史11』中央公論新社、2007年所収)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(1)(11)

担当教員： 土橋 茂樹

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J301,LE-PE4-J31

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:53 更新者： AA9821

更新日時： 2023-01-02 20:38:27

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。オンライン受講できる者は、学内、学部で定められた手続きを踏んだ者のみとし、それ以外でのオンライン受講は一切認めない。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、カントおよびカント主義における道徳哲学を中心に考察していきます。半年間（前期）で、カント哲学の一般的な説明から始めて、『純粋理性批判』『人倫の形而上学の基礎付け』『実践理性批判』から『人倫の形而上学』までの、主だったテキストに即して彼の道徳哲学の解明を試みます。その上で、現代倫理学の抱える問題意識に即して、カントおよびカント主義的な道徳哲学がもつ現代的な意義を批判的に考察していきたいと思ひます。

科目目的

この講義では、以下の3点を目的とします。

- ① カントの道徳哲学を彼の哲学体系に位置付けた上で、その内容をテキストに即して正確に理解すること。
- ② カントの義務論的な道徳説が、晩年の徳論によってどのように変化したのか、また、現代のカント解釈によって刷新されたカント主義的な立場がどのようなものとなったのかを理解すること。
- ③ 現代における倫理的な問題状況において、カントおよびカント主義の考え方がどの程度有効に機能するのかを検証すること。

到達目標

カントの哲学書は、和訳本で読んでもカント特有の言葉遣いや専門用語が多すぎてわかりにくいものですが、カントが考え、展開した哲学的主張を自分なりの言葉で説明できるよう目指してください。その上で、カントの道徳哲学が現代のさまざまな倫理的問題に対してどの程度有効であるのかを、自分なりに批判的に吟味できるようにすることをこの講義の最終目標として掲げたいと思ひます。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. カント哲学の一般的説明（『純粋理性批判』を中心に）
3. カントの道徳哲学構想（『人倫の形而上学の基礎付け』）
4. カントの自由論（『実践理性批判』を中心に）
5. カントの法論（『人倫の形而上学』）
6. カントの徳論（『人倫の形而上学』）
7. 到達度確認のための質疑応答
8. 現代カント主義の研究：構成主義（O. オニール）
9. 現代カント主義の研究：規範性の源泉（C. コースガード）
10. 現代カント主義の研究：「尊敬」概念の展開
11. カント（主義）の「個人」概念の批判的考察
12. 功利主義や徳倫理学との関係について
13. カント（主義的）道徳哲学の現代的意義について
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

できる限りカントの（和訳）テキストを自分なりに読み進めることが望ましいので、毎回、事前に配布するプリントに引用されたカントのテキストを何度も熟読し、自分なりの読書ノートを作成してから授業に臨むようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	65%	講義で取り上げた主題について、最長でも3,000字、2000字以上を目安に、小論文を提出してもらいます。
平常点	35%	毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は14回あるので、 $2.5 \times 14=35$ とカウント。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

カント関係の翻訳書はたくさんありますが、講義で使用するテキストは毎回pdf文書化したものをmanabaにアップするので、特に購入する必要はありません。その他の参考文献に関しては授業でその都度、指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(1)(11)

担当教員： 和田 有希子

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J301,LE-PE4-J31

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:53 更新者： AD1166

更新日時： 2023-01-09 22:41:07

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、禅について多角的に検討していきます。禅は、仏教の一つの宗派ということ以上に、日本文化との関わりが指摘されたり、あるいは欧米の起業家などの精神的支柱になった経緯を持ちます。なぜ禅はそのような様々な価値を現出する「哲学」を有していたのでしょうか。本講義では、禅の歴史的な展開とその意義を、特に禅が基盤を為した中世を中心に押さえた上で、禅が持っている様々な「哲学」について考えていきたいと思えます。西洋哲学とはまた違った物の考え方に触れることになることでしょう。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」「複眼的思考」を主体的に習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ① 禅宗の展開を知ることから、思想がいかに重層的に展開するかを知ること。
- ② 禅宗のもつ哲学から、多様なものの考え方の存在を知ること。
- ③ 既存の枠組みで物事を捉えることの限界を知り、既存の枠組みの成立過程を自覚し、そうした枠組みを超えた見方ができるようになること。

授業計画と内容

- 1 インTRODクシヨン：これまでの禅宗史の見方と近代的宗教観
- 2 禅研究の見直しと名古屋真福寺禅籍調査から新たに見える禅宗世界：2つの栄西展をめぐって
- 3 真福寺新出史料から見直す栄西の禅（教主論と禅）
- 4 禅とは何か：栄西と道元が禅を通じて目指したもの
- 5 栄西と戒律・清規：「創造」される禅
- 6 鎌倉初期の禅の実態：達磨宗という一派の動き
- 7 鎌倉中期思想界への禅のインパクト：京都東福寺開山円爾（1200～80）の到達点
- 8 禅と如来蔵思想：円爾と『釈摩訶衍論』
- 9 鎌倉中後期以降の禅の諸方面への影響：神道説・能楽・世界観
- 10 中国・宋代禅思想の展開と鎌倉期におけるその受容の特色
- 11 説話文学『沙石集』の著者無住と禅
- 12 「純粹な」禅とは何か：瑩山紹瑾の「純一の禅」、宗峰妙超の教宗批判と禅、一休の頓知と禅
- 13 禅の哲学：言葉を超えることと言葉を持つこと
- 14 総括：禅の見直しから分かる禅という「哲学」

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	70% 期末に、講義で取り上げた内容に関してレポートを提出してもらいます(3000字程度)。
平常点	30% 毎回授業の最後に、リアクションペーパーを書いてもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業では、当方で作成したレジュメを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(2)(12)

担当教員： 土橋 茂樹

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J302,LE-PE4-J31

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:53 更新者： AA9821

更新日時： 2023-01-13 00:11:03

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。オンライン受講できる者は、学内、学部で定められた手続きを踏んだ者のみとし、それ以外でのオンライン受講は一切認めない。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、哲学と宗教との相互補完的な関係を、具体的にキリスト教の成立の場面で考察していきます。ユダヤ教からキリスト教がどのように成立し、自らの独自性を築き上げていったか、またその際に、ギリシア哲学（プラトンおよび（新）プラトン主義、アリストテレス、ストア主義など）がどれほど有効で必要不可欠であったかを、キリスト教の基礎知識を歴史的に説明していきながら解明していきます。

科目目的

初期キリスト教の成立史を詳細にたどることで、わかったようで実はあまり知られていないキリスト教のいわば根っこをしっかりと理解できるようになることを目指します。それと同時に、信仰と理性という、まるで水と油のような敵対関係にあるように思われていたキリスト教とギリシア哲学が、そうした対立的な関係を抱えこみながらも実は相互補完的に互いを生かし合っていたという思想上の洞察へ、皆さんを誘（いざな）いたいと思います。

到達目標

この講義では、キリスト教に関するもっとも根本的な三つの問いを問うていきます。すなわち、(1) なぜイエス・キリストは「御言葉」と呼ばれるのか？(2) なぜイエス・キリストは「子」と呼ばれるのか？(3) なぜイエス・キリストは「神の像」と呼ばれるのか？ これら三つの問いは聖書を読み始めたとき、誰もが素朴に抱く問いですが、多くの人はわかったつもりになって通りすぎてしまいます。しかし、この三つの問いに答えていくためには、実はギリシア哲学のほとんどすべてのエッセンスを総動員していかねばならないほど、哲学的な考え方が必要となります。したがって、この講義の到達目標は、これら三つの問いに対して、理論的にも思想的にも的確に答えられるようになることです。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. なぜイエス・キリストは「御言葉」と呼ばれるのか？-神の〈ロゴス〉という考え方-
3. 「二つの〈ロゴス〉」説-キリスト教の護教家たち-
4. 神の思惟としてのアイデア
5. なぜイエス・キリストは「子」と呼ばれるのか？-〈父〉が〈子〉を「生む」ということの意味-
6. 〈父〉なる神と〈子〉キリストは、一体どうして「ふたりの神」ではなく「一なる神」なのか？ -ホモ・ウーシオス（同一本質）説-
7. グノーシス主義とキリスト教、そして哲学
8. なぜイエス・キリストは「神の像」と呼ばれるのか？-神学から救済の実現（オイコノミア）へ-
9. 「像」とは何か-イコン（聖画像）崇拜と偶像崇拜は一体どう違うのか？
10. 正統と異端-アレキオス論争とは何か？
11. 三位一体論で何？
12. キリスト教はオウム真理教や旧統一原理とどこが違うのか？
13. 理性は信仰を追放するのか、それとも必要とするのか？
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	65% 課題を提出するので、その課題に即したレポートを期末に提出してもらう。
平常点	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は14回あるので、 $2.5 \times 14=35$ とカウント。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

*授業で使用するテキスト
土橋茂樹『キリスト教の生立ちをめぐる三つの問い-教父哲学で読み解くキリスト教-』、教文館、2023年(刊行予定)
*参考書
土橋茂樹『三位一体』、中公新書、2023年(刊行予定)
ただし、上記二冊の中から講義で使用する部分をピックアップし敷衍したものを毎回handoutとしてmanabaにアップするので、必ずしも二冊とも購入する必要はありません。その意味で上記二冊は、あくまで、より深く理解したい人向きと言えます。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 哲学講義(2)(12)**担当教員： 和田 有希子**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：水2

配当年次：3年次配当

科目ナンバー：LE-PE3-J302,LE-PE4-J31

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:53 更新者：AD1166

更新日時：2023-01-09 21:29:36

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期には、主に禅の歴史的、思想的展開について検討しましたが、本講義では、禅を欧米に知らしめ、禅の持つ普遍性を世界にアピールした鈴木大拙(1870～1966)の著作を取り上げて、近代において禅がどのような意義を持ったのかについて考えます。鈴木大拙は、当時政治的な意味合いを背景に強い力を持っていたキリスト教など一神教に対する東洋思想の特色、西洋思想と仏教との関わりなど、幅広い言説を残しています。そうした中で彼は、近代をどう超えるか、つまりポストモダンの思想の行方を考えさせる方向性を論じています。日本から発信されたポストモダンの思想はどのようなものか、ポストモダンの哲学に必要とされる要素とは何なのか、一緒に検討していきましょう。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」「複眼的思考」を主体的に習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ①鈴木大拙がどのような人物であり、どのような著作を残したのかについて説明できるようになること。
- ②鈴木大拙が、その当時の世界に、禅を通して何を発信しようとしたのかについて知ること。
- ③鈴木大拙の言説の背景となっている諸思想と、現代思想への影響について知ること。
- ④西洋と東洋の見方の違いとともに、そうした区分を超えた普遍的な視点から、人間が安心して生きるためにはどのような思考を求めものなのかについて、多角的に検討できるようになること。

授業計画と内容

1. イントロダクション：いまなぜ鈴木大拙なのか
2. 鈴木大拙に影響を与えた人々：鎌倉円覚寺禅僧、今北洪川と釈宗演
3. 1893年万国宗教会議における一神教と多神教の議論
4. 当時の日本の哲学・宗教の模索：井上哲次郎、西村茂樹、新渡戸稲造
5. 西洋近代思想の受容と近代への批判：『新宗教論』を読む
6. 『大乘仏教概論』を読む(1)
7. 『大乘仏教概論』を読む(2)：近代における仏書『大乘起信論』への注目とその意味
8. 正統的哲学と神智学：大拙の神智学への共感の意味
9. 大拙の禅宗観と中国・宋代禅：『禅思想史研究』から
10. 日本人の真の宗教意識と禅：『日本の霊性』を読む
11. 仏教とキリスト教の連続：『神秘主義—キリスト教と仏教』
12. 大拙の歴史観
13. 大拙から西田幾多郎・井筒俊彦、贈与論の議論まで
14. 総括：禅とポストモダンの哲学へ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	70% 期末に、講義で取り上げた内容に関してレポートを提出してもらいます(3000字程度)。
平常点	30% 毎回授業の最後に、リアクションペーパーを提出してもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

当方でレジュメを用意しますが、授業で使用するテキストについて、比較的入手しやすいものについて記しておきます。その他、図書館で借りることのできる必要な文献については講義内で紹介します。

- 《授業で使用するテキスト：参考までに》
- ・鈴木大拙著・佐々木閑訳『大乘仏教概論』(2016年 岩波文庫 青323-4)
- ・鈴木大拙著『日本の靈性』(2010年、角川ソフィア文庫)
- ・鈴木大拙著・板東性純・清水守拙訳『神秘主義—キリスト教と仏教』(2020年 岩波文庫 青323-6)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 哲学講義(3)(13)

担当教員: 佐藤 陽祐

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 金3

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J303,LE-PE4-J31

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:54 更新者: AA2233

更新日時: 2022-12-27 17:23:00

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。オンライン受講できる者は、学内、学部で定められた手続きを踏んだ者のみとし、それ以外でのオンライン受講は一切認めない。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

現代の哲学シーンでもホットな議論が交わされ、かつ伝統的な問題群でもある「心の哲学」について学んでいきます。

科目目的

この講義の目的は主として3つあります。

- ①哲学的に考え、議論ができるようになること。
- ②諸君がこれまでに行ってきた「勉強」とこれから行う「学問」の違いを知ること。
そして、学問がどれほどおもしろいものなのかを体感すること。
- ③現在スリリングな研究が行われ、議論が活発な「心の哲学」について学ぶことによって、学問として専門的に哲学をすることの糸口をつかみ、諸君の興味範囲を拡大していくこと。

到達目標

心の哲学について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. 「心の哲学」という研究領域について
3. 意識についての問題
4. クオリアと意識のハードプロブレム
5. 意識経験の構造について
6. 私たちは何を経験しているのか
7. 心の志向性について
8. 心の因果性について—心脳同一説と機能主義
9. 他者の心について
10. エモイ！—情動の本性について
11. 認知哲学の流れ
12. 古典的計算主義とコネクショニズム
13. 拡張する心
14. ホワイトヘッドの意識論

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストを読み、意味の分からなかった語句については、辞書をひき、調べましょう。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

レポート 100% 学期末に、講義でとりあげた主題について、レポートを提出してもらいます。

平常点 0%

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

レポート採点基準

設問の要求に応える内容になっているか (30点)

論述として矛盾がないか、論理的な展開・構成を示すことができるか (30点)

論述のなかに履修者独自の個性的、独創的発想が盛り込まれているか (30点)

学生としてふさわしい表現や記述が行われているか (10点)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考資料については、適宜コピーを配布します。

参考文献

金杉武司『心の哲学入門』勁草書房, 2007.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名: 哲学講義(3)(13)

担当教員: 瀬嶋 貞徳

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J303,LE-PE4-J31

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:54 更新者: AB4446

更新日時: 2023-01-09 12:39:54

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西洋哲学において「实在」とは何であったのかについて考えるとともに「哲学」「観念」についての理解を深めていきます。参加者にも意見を求めます。

科目目的

この講義の目的は以下のとおりです。

- ①「哲学」とは何であるのかの基本的理解。
- ②「哲学」における「实在」と「観念」の重要性の理解。
- ③哲学を専門に勉強する意義について考えることができること。

到達目標

哲学について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 「哲学」とは何か
3. 「哲学」における「实在」と「観念」
4. 古代における「实在」と「観念」
5. 中世キリスト教における「实在」と「観念」
6. 想起説と照明説について
7. アンセルムスの「神の存在論的証明」
8. 近世合理主義における「観念」と「实在」
9. カント「Seinはレアールな述語ではない」
- 1 0. G. E. ムーアの実在論
- 1 1. ムーアの「観念論論駁」
- 1 2. 「存在するとは知覚されてあることである」
- 1 3. ムーアの実在論と「反哲学」
- 1 4. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

レポート 50% 前期末にレポート課題を課します。
平常点 50% 出席、積極的に議論に参加するかどうかを評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考資料については、manaba 上で公開します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(4)(14)**担当教員： 佐藤 陽祐**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 金3

配当年次：3年次配当

科目ナンバー：LE-PE3-J304,LE-PE4-J31

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:54 更新者：AA2233

更新日時：2022-12-27 17:32:47

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。オンライン受講できる者は、学内、学部で定められた手続きを踏んだ者のみとし、それ以外でのオンライン受講は一切認めない。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

公共哲学と政治思想について講義をします。授業参加時は、主体的に各種のテーマや問題について考えるようにしてください。

科目目的

この講義の目的は主として3つあります。

- ①哲学的に考え、議論ができるようになること。
- ②諸君がこれまでに行ってきた「勉強」とこれから行う「学問」の違いを知ること。
そして、学問がどれほどおもしろいものなのかを体感すること。
- ③公共哲学や政治思想について学ぶことによって、市民社会に生きる一人の人間としての私たちのあり方を考えながら、学問として専門的に哲学をすることの糸口をつかみ、諸君の興味範囲を拡大していくこと。

到達目標

公共哲学について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. 公共哲学とは何か
3. 功利主義と公共哲学
4. リベラリズムと公共哲学
5. リベラリズム批判の公共哲学
6. リベラリズムを批判するIーノージックの権利論
7. リベラリズムを批判するIIーマッキンタイアの徳倫理学
8. アーレントの公共哲学
9. ハーバーマスの公共哲学
10. 熟議デモクラシー
11. 社会統合と公共性
12. 危機と公共哲学
13. 科学技術における公共的問題
14. 実践的に考えるー公共哲学のリアルな問題

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストを読み、意味の分からなかった語句については、辞書をひき、調べましょう。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	100% 学期末に、講義でとりあげた主題について、レポートを提出してもらいます。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

レポートの評価基準

- 設問の要求に応える内容になっているか (30点)
- 論述として矛盾がないか、論理的な展開・構成を示すことができているか (30点)
- 論述のなかに受験者独自の個性的、独創的発想が盛り込まれているか (30点)
- 学生としてふさわしい表現や記述が行われているか (10点)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義で使用するテキストは、授業内でコピーして配布します。
講義内で適宜、参考文献を提示します。

参考文献
山脇直司『公共哲学とは何か』ちくま新書, 2004.
マイケル・サンデル『公共哲学 政治における道徳を考える』ちくま学芸文庫, 2011.

オフィスアワー

その他特記事項

成績評価であるレポートの採点を非常に厳しく行います。講義にはきちんと出席し、内容の理解に努めること。

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(4)(14)

担当教員： 瀬嶋 貞徳

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J304,LE-PE4-J31

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:54 更新者： AB4446

更新日時： 2023-01-09 12:39:39

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西洋の倫理思想について講義します。

科目目的

この講義の目的は以下のとおりです。

- ①西洋における倫理思想の基本的理解。
- ②「価値」「倫理」について自ら考え、これからの人生に活かすことができる。

到達目標

公共哲学について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 西洋倫理思想の概略
3. カントとベンサム
4. 実存主義の倫理思想
5. ウィトゲンシュタインの倫理思想
6. 論理実証主義の倫理思想
7. ムーアの「直観主義」
8. スティーヴンスンの「情動主義」
9. ヘアの「指図主義」
10. ヘアの二層理論
11. ムーアの「自然主義的誤謬」
12. ムーアの「美的享受」
13. ムーアの「内在的価値」
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 50% 後期末にレポート課題を課します。

平常点 50% 出席、積極的に議論に参加するかどうかを評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義内で適宜、参考文献を提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(7)(17)

担当教員： 尾留川 方孝

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J307,LE-PE4-J31

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:55 更新者： AC8022

更新日時： 2023-01-01 12:00:07

履修条件・関連科目等

仏教に関心がある。存在についての考え方に関心がある。
「哲学講義(8)(18)」と関連します。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

仏教はインドで成立してから日本に伝来するまでに変化や発展があり、さまざまな立場や考え方(宗派)が成立し、経典も膨大となっていた。多くの仏教関連文書は特定の立場によるもので、内容も特定のことに限定され、また緻密で詳細ではあるが難解なものが多い。さらに立場によって互いに矛盾する主張もある。それらの立場の主張をいきなり学ぼうとしても、しばしば迷子のような状態になってしまうので、まずはさまざまな立場で前提とされ共有される根幹部分を知らねばならない。

仏教をはじめた釈迦はつぎのように考えた。人生はつまるところ苦であるが、苦は存在についての無知から生じる。もし存在のあるがままを知って無知を消すことができれば、苦も消滅する。それゆえ存在のあるがまま(諸法実相)とは一体何なのか、考察がなされた。つまり存在とは何か?存在とはどのようにあるか?という存在論が仏教の根幹である。

本講義では、後世しばしば言及される釈迦の生涯をまず概観し、それから仏教の存在論すなわち「存在のありのまま」についての考察の展開を学ぶ。

科目目的

仏教の根幹にある、開祖釈迦の人生と、存在(世界)のあり方に対する考察の発展を学ぶ。

仏教は、近代以前の日本および東洋において、もっともひろく受け入れられた宗教および哲学・思想の一つであり、日本独自とされる思想や文化にも、それらの影響を受けたものが少なくない。それらの深い理解を可能にする基礎的知識や根幹にある考え方を身に付ける。

到達目標

仏教の隔心といえる存在論(存在のありがまとは?)について、どのように発展してきたか、仏教の基礎的概念とあわせ説明できるようになる。また世の中にある多様な思想について比較検討するときの、一つの視点を獲得する。

授業計画と内容

- 第1回 授業概要の説明
- 第2回 初期仏教1: 仏教成立の条件: 古代インドの社会と宗教
- 第3回 初期仏教2: 釈迦の生涯と形而上学拒否
- 第4回 初期仏教3: 十二縁起と五蘊 「私」は実在か?
- 第5回 初期仏教4: 釈迦の死と仏塔と経典の成立
- 第6回 経典とは?: 経・律・論、大蔵経、翻訳と伝播 教相判釈
- 第7回 部派仏教1: 娑婆世界 須弥山世界・六道・三界
- 第8回 部派仏教2: 生き物のあり方 業報思想と輪廻転生
- 第9回 部派仏教3: 原子は実在 三世実有・法体恒有
- 第10回 大乘仏教1: 存在はゼロ: 般若思想(中観派)
- 第11回 大乘仏教2: 世界は心を作る 唯識思想
- 第12回 大乘仏教3: 諸存在の相互依存 法界縁起
- 第13回 大乘仏教4: 「私」と世界(諸存在)の対応関係
- 第14回 総括・まとめ: 仏と存在

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	釈迦の生涯、仏教の存在についての考え方とその発展について、授業で学んだ基本的内容が十分に理解できているか。
レポート	0%	
平常点	40%	授業内容の理解を確認する簡単な課題を、毎回授業時間内に提出してもらいます。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の課題(平常点の対象)の半数以上を提出し、なおかつ学期末テストを受験することを、評価の必要条件とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
レジメおよび補足資料を適宜を配布する。特定のテキストは用いない。

参考文献(必須ではない)
木村清孝『教養としての仏教思想』ちくま新書
中村元・三枝充恵『パウダ』講談社学術文庫

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(8)(18)

担当教員： 尾留川 方孝

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J308,LE-PE4-J31

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:55 更新者： AC8022

更新日時： 2023-01-01 11:58:35

履修条件・関連科目等

仏教に関心がある。「仏陀とはどのようなものか？」に興味がある。
哲学講義(7)(17)と関連します。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

仏教は釈迦が人々に教え説いたことにはじまり、この教えに従う人々が仏教徒となったのだが、彼らには釈迦への思慕の感情も少なからずあった。誤解を恐れずに言うなら、仏教徒には、少なからず釈迦というアイドルのファンという側面があった。釈迦の生前から部派仏教の時代は、釈迦の教えが守られたが、次第に釈迦が理想化され、やがてその肥大化したファン心理が、仏教をそれまでとは異なる方向に大きく展開させて、大乘仏教が成立したともいえる。

本講義では、釈迦という人格への追慕から生じた大乘仏教の発展を学ぶ。まず釈迦の死によりこの世は「無仏」となったことを確認する。それから、自分が釈迦になりたい(仏になりたい)という方向性、釈迦に会いたいという方向性、実は私はすでに仏だ!という方向性の、三つの方向の展開について学ぶ。

個々の經典の厳密な翻訳および解釈や各宗派の緻密で壮大な理論の解説は、多くの優れた書籍が出版されている。ただ、それらでは特定の經典や宗派をこえた大きな流れは後回しになりがちでなので、本講義では、厳密さや詳細さはあえて求めず、重要な思想や概念を大きな流れの中で理解することを優先する。

科目目的

本講義では、仏教で論じられてきた存在についての考え方をふまえ、大乘仏教の中から、仏陀観念(仏とはどういう人か)や、人々が仏となれる可能性に関わる考え方(なぜ人は仏となれるか/どうすれば仏になれるか)を学ぶ。仏教思想は多様で多岐にわたるが、代表的な考え方をとりあげる。日本思想では大乘仏教が重要な要素となっているので、その理解の基礎ともなるはずである。

到達目標

多様な仏教思想の中から、釈迦仏への思慕の感情を原動力として発展した思想について、説明できるようになる。すなわち「無仏」とはどういうことか、自分が釈迦になろうという営為、釈迦に会おうとする営為、私は仏にほなからないという考え方、これらについて簡潔に説明できるようになる。これらにより、仏教文化の理解を深める基礎的知識を身に付ける。

授業計画と内容

- 第1回 授業概要：仏をどう理解するか/どうやって仏になるか
- 第2回 釈迦死後の拠り所と「無仏」
- 第3回 「私」も仏に成れるはず：菩薩乗の出現(≒「大乘」の成立)
- 第4回 仏のイメージの変化：他者への慈悲や関与が仏の核心に
- 第5回 釈迦の成道過程の再解釈：ジャータカと六波羅蜜
- 第6回 仏に会おう1：仏に会うことの効果
- 第7回 仏に会おう2：極楽浄土の阿弥陀仏
- 第8回 仏に会おう3：密厳浄土の大日如来
- 第9回 無仏じゃない1：観仏の極致にある見仏
- 第10回 無仏じゃない2：法身仏の久遠実成・常住
- 第11回 仏は「私」の中にすでにある：授記から如来蔵へ
- 第12回 世界は仏でできている1：四大説から六大説へ
- 第13回 世界は仏でできている2：六大から展開する仏・人・物・世間
- 第14回 総括・まとめ：仏と「私」

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

各授業は、それまでの授業内容の理解を前提にして進めるので、毎回復習をしっかりと、内容についての理解を確かなものとし、さらに出てきた基礎的な概念(仏教の専門用語)も意味を確認しておくこと。理解できないまま放置すると、それ以降の授業がますます分からなくなってしまいます。

仏教の専門用語についてはなるべく分かりやすく説明しますが、もっと知りたいとか、よく分からなかったという場合には、各自こまめに辞書を引くようにしてください。各種仏教辞典は、図書館や哲学研究室にあります。参考文献は必須ではありません

んが、基本的ではあるが授業では言及できないことも書いてあります。余裕がある人、もっと学びたい人は、読んでみてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	仏陀観、人が仏になれるかの考察について、十分に理解できているか。
レポート	0%	
平常点	40%	授業の理解度を確認するために、簡単な課題を毎回授業時間中に書いてもらいます。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の課題を半数以上提出し、なおかつ期末試験の受験を、単位認定の必要条件とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
レジュメおよび補足資料を適宜を配布する。特定のテキストは用いない。

参考文献：
木村清孝『教養としての仏教思想』ちくま新書
中村元・三枝充恵『パウッダ』講談社学術文庫

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考
